

土木
工学

主婦 ▶ 企業 ▶ 海外留学(博士号取得) ▶ 大学教員 ▶ 国立研究所研究員 ▶ 大学教員

マイペースのキャリアメイクー安心・安全な社会基盤の構築へ向けー

桑野玲子 (東京大学生産技術研究所 准教授)

仕事のやりがい

— 知的な好奇心・探究心と社会的意義 —
現在、大学の研究所で、地盤や土構造物の安全性や耐久性、土砂災害の防止や対策に関する調査や研究に携わっています。現実の様々な問題を克服するために、研究室の学生さんと協同して実験を計画・実施、結果を分析して、現象の解明を目指すのは、何より楽しい作業です。人々の安全・安心な生活を支えるテーマを扱っていますので、国・自治体や企業との情報交換や連携が不可欠で、研究成果が実務に反映されやすく、研究の社会的効果や意義を強く意識できるのも、この仕事の醍醐味のひとつです。

仕事と家庭とのバランス

— がまんしない、無理しないで、全て楽しむ —
仕事は大切ですが、家族や自分の生活は私にとってそれ以上に大切です。もともと、仕事と生活・趣味は完全に区別していましたが、特に子供が生まれてからは子供との関わりを最優先に考え、周囲の人々に助けをもらいながら楽しく子育てしています。学生時代から続けている山登りも四季折々楽しんでいます。しかしながら、圧倒的に時間が足りないのが、仕事上の責任や諸事は優先順位をつけただけ効率的にこなす(たいへんなどときには余計な仕事はしない)、やりたいことは時間を作って積極的に楽しむ、何も犠牲にしない、無理しない、というところで何とかバランスを保っているつもりです。

進路決定のきっかけ

— 社会の一員としての自分の役割 —
土木工学・地盤工学を専攻したのは、科学技術が高度に発達した現代でもなお、毎年のように自然災害で被害をうける日本の状況に、何らかの形で貢献したいと思ったのがきっかけです。社会に出てからは、建設会社、海外留学、公的研究機関、大学と、様々な職場や立場を変えながら仕事を継続してきました。このように転職を繰り返したことは必ずしも当初から意図していたわけではなく、自己実現の欲求、個人的事情、職場の状況、タイミングや運、など様々な要素が関連しています。結果的に、多くの人々と一緒に仕事をする機会を得て、視野や興味の対象が広がり、私のキャリアを豊かにしてくれました。

進路選択に対するメッセージ

— 貴女自身がロールモデルになろう・自分を信じて柔軟な自分の選択を —
仕事、家庭、地域社会、趣味・・・人は様々なグループにおいてそれぞれの役割や立場があり、どのようにそれらのバランスを取り自己実現を達成していくかは、まさに人それぞれだと思います。長いキャリアの中で、思いがけない環境や状況に遭遇する可能性もありますし、その人にとっての理想や優先順位は、置かれた環境や年齢によって変わっていくのが普通です。生活や仕事のスタイル、価値観も多様で、これと決まった定型のキャリアパスはありません。思うようにいかない事も多いですが、そういう時こそ自分の可能性を信じて、前向きにしなやかに“自分の”選択をして下さい。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

建設会社で土木技術者として設計の実務を担当していましたが、留学を機に研究者へ方向転換しました。海外では、年齢や学歴などにこだわらずその人自身を評価する姿勢が強く、解放感を感じました。また、時間の流れ方も日本に比べてゆったりとしていて、物事をじっくりと考えることができる環境でした。このような経験は、帰国してからも周囲に流されず自分なりの軸を作るペース構築に役立っていると思います。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

私が留学していた英国では、“仕事に追われて自分を失う”ような人はあまりいませんでした。男女を問わずワークライフバランスが実現されていたように思います。そんな中で、短期的視野にとらわれない息の長い優れた研究が多いように感じました。忙しい毎日も無用な焦りは決して良い結果をもたらさないのかもかもしれません。働き方を考える良いきっかけになりました。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

勤務していた会社の留学制度を利用して、英国の大学に1年間客員研究員として派遣されましたが、滞在中に研究が面白くなったため、正式に会社を退職して博士課程に進学しました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

英国滞在中は、日本だったらもっと効率的に物事が進むのに、と苛立つ場面がよくありました。また、日本人の豊かな感性を懐かしく思うこともありました。海外にいと、日本の良い面も悪い面も、客観的に見ることができます。

岩手・宮城内陸地震の被災地調査



< 桑野玲子 (くわのれいこ) プロフィール > — 非定型なキャリアパス —

- 1982年 東京大学教養学部理科I類入学
- 1986年 東京大学工学部土木工学科卒業
- 1988年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了
結婚、夫について、タイ・バンコクへ(専業主婦)
- 1989年 大成建設入社、土木設計部勤務
- 1994年 社内の留学制度を利用してロンドン大学インペリアルカレッジへ
- 1995年 大成建設退社、インペリアルカレッジ土木環境工学科博士課程入学
- 1999年 博士号取得、東京大学大学院工学系研究科助手
- 2000年 同上専任講師
- 2001年 独立行政法人土木研究所 主任研究員
- 2003年 長女出産 以後数年間は子育て最優先に生活がシフト
- 2006年～ 東京大学生産技術研究所 准教授